飯能市観光ビジョン

（第三期）

令和5年4月

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・1
策定にあたって ・・・・・・・・・・・・・・・・2
① 飯能市観光ビジョン策定の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・2
② 飯能市観光ビジョンに基づく取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・3
③ 飯能市観光ビジョン（第二期）目標達成状況 ・・・・・・・・・・・・・・4
④ 観光はんのうの現状と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・6
新たな観光ビジョンの必要性 ・・・・・・・・・・・・・・・・8
新たな飯能市観光ビジョン（第三期） ・・・・・・・・・・・・・・・10
① 目指す将来像 ・・・・・・・・・・・・・・・10
② キャッチフレーズ ・・・・・・・・・・・・・・・10
③ 飯能市観光ビジョン（第三期）における5つの目標 ・・・・・・・11
④ 目標達成のための基本施策 ・・・・・・・・・・・・・・・12
1 新たな交流と観光のすすめ
（1）観光地の魅力アップと更なる誘客
（2）受入体制の整備、推進体制の強化と住民参画の推進
（3）インバウンド対応の推進
2 エコツーリズムの推進
（1）魅力的でオリジナルな体験価値の提供
⑤ 推進体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・17

～はじめに～

観光は、来訪者による地域の賑わいを生み出すとともに、飲食業や小売業など幅広い消費を喚起する裾野の広い産業として、多くの地域がその魅力を高める取組を行っています。

特に、エコツーリズムの推進は、本市にとって、自然や歴史、文化などの観光資源（特に本市の重要政策課題である森林資源）の保全と活用にも資するものといえます。

また、観光による市の認知度や注目度、イメージの向上は、市民の郷土愛の醸成、来訪者の増加による本市のファンや転入者の増加にも結び付くなど、経済効果のみならず、本市の持続可能なまちづくりに寄与するものです。

そうしたことから、本観光ビジョンは、行政だけではなく、観光地域づくり法人（DMO）(1)（以下「DMO」）として観光庁に登録された（一社）奥むさし飯能観光協会（以下「観光協会」）を中心に、観光関連事業者、農業、林業、商業、工業といった多くの事業者、そして多くの市民の参画による観光振興、観光によるまちづくりを実現するための指針として策定するものです。

なお、観光消費額などの具体的な数値目標は、DMOである観光協会の「観光地域づくり法人形成・確立計画」において設定するものとします。

(1)地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。

～策定にあたって～

① 飯能市観光ビジョン策定の経緯

本市は、自然、歴史、文化、イベント、グルメなど多様な観光資源を有している反面、それらの魅力が多種多様であるがゆえに、「飯能の観光」についての明確なイメージがつかみづらく、「観光地としてのイメージはどちらかというと曖昧である」ことが、ひとつの課題でした。

このため、「本市の観光の方向性を示したビジョン」を策定し、協働型の観光によるまちづくりを推進することで、より魅力的な飯能市の観光【観光はんのう】を推進していくこととし、平成 23 年には、それまでの取組や地域資源を再確認するとともに、市内の観光関連の団体や民間企業等からの意見を踏まえ、「歩いて楽しむ観光」をコンセプトとした、飯能市観光ビジョン（第一期）を策定しました。

また平成 28 年には、飯能市の地域資源のネットワーク化（都市回廊空間の形成）のほか、都心や海外の人々に向けた情報発信、メッツァとの連携やエコツーリズムの推進等を通して、観光関係者、市民、行政が一体となった新たな観光のまちづくりを進めるとともに、「イベントを中心とした観光」から「体験型・着地型観光」「産業としての観光」へのステップアップを目指した、飯能市観光ビジョン（第二期）を策定し、交流人口の倍増による市の活性化や経済好循環などによる地方創生を推進してきました。

② 飯能市観光ビジョンに基づく取組

本市においては、飯能市観光ビジョン（第一期）のコンセプトである「歩いて楽しむ観光」の実現のため、現在 19 あるハイキングコースや 41 か所の観光公衆トイレなどの観光施設の整備を行ってきたほか、飯能まつりなどのイベントの充実をはじめ、農林業や健康づくりと連携した各種事業の実施、飯能駅改札口横への観光案内所の設置や観光ツイッターの開設など、観光施策の推進や情報発信の強化にも取り組んできました。

また、エコツーリズムの先進地である本市においては、平成 25 年度にエコツーリズム推進全体構想の第 2 版の認定を受けたことを契機に、平成 26 年度にはエコツーリズムの所管を環境部門から観光部門に変更し、観光振興の大きなツールと位置づけています。

飯能市観光ビジョン（第二期）においては、飯能市観光ビジョン（第一期）における取組を検証し、本市の観光振興を更に進めていく上での課題を整理するとともに、5 つの目標（①交流人口480万人を目指します。②体験型・着地型観光にステップアップします。③地域の稼ぐ力を醸成し、地方創生につなげます。④グローバルな視点と戦略で取り組みます。⑤観光地としてふさわしい質的向上を図ります。）と、3 つの基本施策（①「観光はんのう」の魅力向上。②体験型、着地型観光の推進。③ICT（情報通信技術）等を活用した誘客の促進。）を設定し、各施策、事業に取り組みました。

③ 飯能市観光ビジョン（第二期）目標達成状況

【目標1】交流人口480万人を目指します。（目標年度：令和７年度）

メッツァのオープンによって、各種マスメディアへの本市の露出が飛躍的に増加した結果、知名度、認知度、注目度が上昇したことにより、令和元年の本市への観光入込客数は過去最高値である410万人を数えました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年の観光入込客数は286万人となり、前年に比べ大きく減少しました。

また、令和４年の観光入込客数は回復傾向にあったものの、約370万人と、令和元年の数値には及ばない結果となりました。

【目標2】体験型・着地型観光にステップアップします。

里地里山の身近な自然や人々の生活文化などを資源としたエコツーリズムの推進に取り組み、多様なツアープログラムが創出され、それらの積極的な情報発信、誘客による体験型・着地型観光を推進しました。

また、林業体験、山歩き、ものづくり体験など多くのエコツアーが造成されたほか、ノーラ名栗ではアウトドアサウナなどが体験できる新たな体験型観光に取り組み、観光協会では釣りやバーベキュー、登山、歴史などを体験する旅行業を生かしたツアーが造成されました。

【目標3】地域の稼ぐ力を醸成し、地方創生につなげます。

メッツァやOH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～、ノーラ名栗などでは、市内物品の販売や観光PRが行われ、市ではそれらの施設と連携した誘客、消費喚起などに積極的に取り組みました。また、観光協会はこれまでの取組や実施体制、戦略や設定したKPIが評価され、令和４年３月には、DMOとして観光庁に登録されました。

【目標4】グローバルな視点と戦略で取り組みます。

市では、国の「ビジット・ジャパン地方連携事業」（富岡製糸場から横浜港へと続く「絹のみち」をモデルコースとし、主に中国をターゲットとした観光PR事業：「日本シルクロード事業」）に参画しました。また、市単独で大手旅行メディア「地球の歩き方 Good Luck Trip 東京」に本市の特集記事を掲載し、首都圏主要観光案内所及び東アジアの旅行代理店窓口で配布したほか、併せてWEBやデジタル配信なども行いました。

【目標5】観光地としてふさわしい質的向上を図ります。

市では、都市回廊空間周辺における質的向上として、飯能河原で割岩橋のライトアップや遊歩道リニューアル、観光公衆トイレの新設や改修などを行ったほか、トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園ではカフェ・プイストの設置やライトアップなどを、宮沢湖（メッツァ）周辺では散策路の整備などを行い、更なる魅力アップを図りました。

また、道標やハイキング道の整備、公共施設及び飯能駅のWi-Fi整備を行い来訪者等の利便性が向上しました。

④ 観光はんのうの現状と課題

本市は市域の 75％を占める森林や入間川、高麗川をはじめとした清流など魅力ある地域資源に恵まれ、都心からのアクセスの良さもあり、本市には登山やハイキング、バーベキューなどで多くの人が訪れています。

平成 30 年 11 月のメッツァビレッジ、平成 31 年3月のムーミンバレーパークのグランドオープンにより多くの観光客が訪れるとともに、平成９年の開園以来から多くのファンを魅了しているトーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園などと相まって「北欧・フィンランドとの親和性」のある本市の魅力が大きく注目されることとなりました。

市街地を取り囲む「天覧山・飯能河原周辺」、「トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園」、「メッツァ」を拠点とした都市回廊空間においては、それぞれの魅力を高め合い、回遊性の向上などを図った結果、一日当たり1,000 人から2,000 人で推移していた本市を訪れる外国人観光客数はほぼ倍増しました。※

飯能市のエコツーリズムは、平成 16 年にモデル地区指定区域として、国の推進モデルに選定され、多くの市民や事業者の理解・協力・参画により本市の自然、歴史や暮らしなどをテーマとした多様なツアーが実施されています。

一方で、令和2年には、新型コロナウイルスの感染症の感染拡大により、観光入込客数が 286万人と大きく落ち込み、外国人観光客数も一日当たり約500 人にまで減少しました。※

また、自然志向、健康志向やコロナ禍におけるアウトドア・密集回避志向などの傾向から、飯能河原など一部のエリアでは、集団で密な状態での飲酒やごみの投棄など、オーバーツーリズムが大きな課題となりました。

※RESAS 調べ

コロナ禍以前の飯能河原の様子

オーバーツーリズム状態になってしまった飯能河原

飯能河原に残されたごみ

～新たな観光ビジョンの必要性～

令和2年1月以降の新型コロナウイルス感染者数の増加、いわゆるコロナ禍の状況によって、観光施策の企画や実施については、行政や事業者のみならず、旅行者やそれを受け入れる地域住民といった多くの関係者が以前とは異なる対応を余儀なくされました。

また、令和元年には 3,188 万人と過去最高を記録した訪日外国人旅行者（観光客）数は、令和2年には、前年比 87.1%減の 412 万人となり、訪日外国人旅行者による消費額も大幅に減少するとともに、国内旅行についても、旅行回数、旅行者数、旅行消費額などが大きく減少しました。

近年の「モノ消費」から「コト消費」、「トキ消費」へと変化する消費傾向と合わせ、それまで主流となっていた大衆観光から、少人数や個人での体験型、滞在型観光への変化が更に加速するとともに、いわゆる分散型観光といわれる、オフシーズン、アウトドアなどの密集しない観光や、マイクロツーリズム(2)、ワーケーション(3)、ブレジャー（ブリージャー）(4)など、働き方改革などとも合致した「新たな旅のスタイル」が注目されてきました。

また、本市においては、平成28年の観光協会の一般社団法人化に合わせ、観光協会の事務局が独立するといった大きな改革が行われましたが、市（行政）と観光協会（民間）との役割分担、担うべき部分については、依然として曖昧な部分がありました。

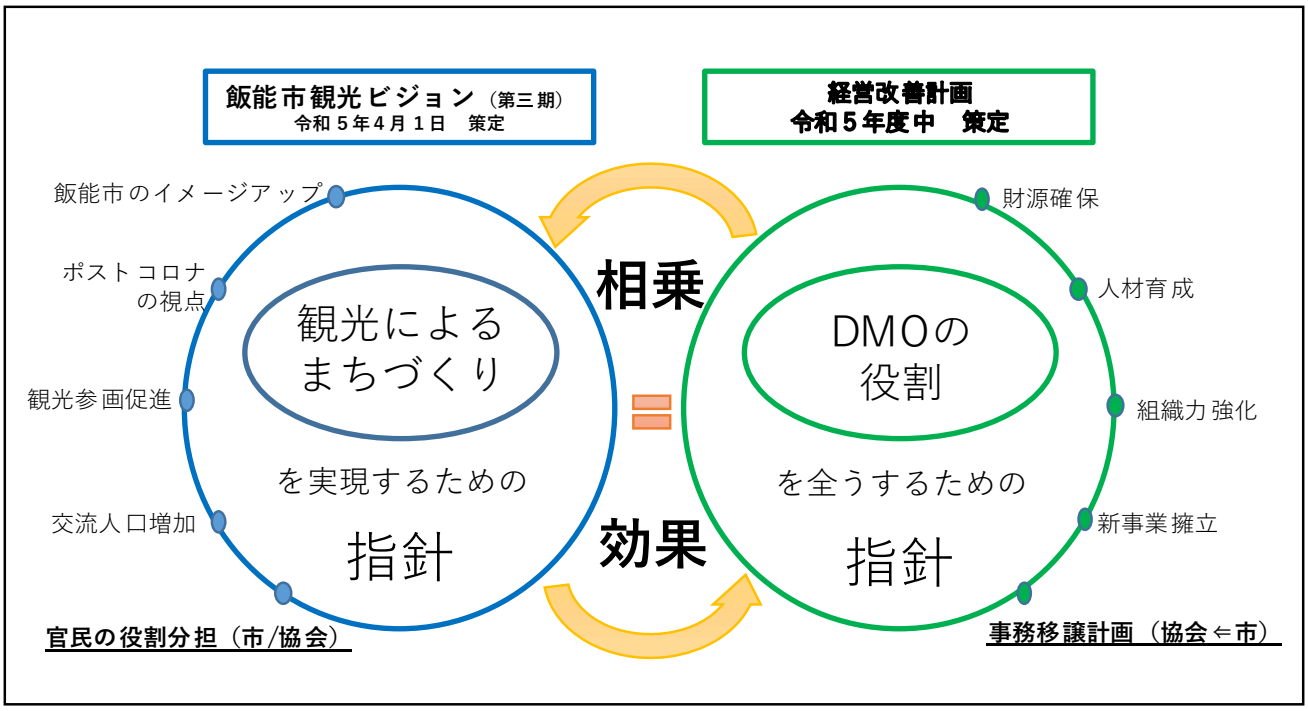
令和4年3月に観光協会が DMO に登録されたことを契機に、新たな役割を担うこととなった観光協会と市との役割分担をより明確にする必要があります。

このような背景を踏まえ、これまで推進してきた飯能市観光ビジョン（第二期）の視点に、新型コロナウイルスの感染防止やオーバーツーリズム対策といった「ポストコロナ時代に対応した観光スタイルの視点」を加えるとともに、「官民の役割分担の視点」に基づき、DMOである観光協会と行政との役割分担を本ビジョンにおいて

明確にするため、飯能市観光ビジョン（第三期）を策定することとします。

なお、市（行政）と観光協会（DMO）との適切な役割分担の中で生じる事務移譲等の振り分けは、双方に相乗効果をもたらすことが想定されるため、具体的な移譲計画等については、令和5年度中に観光協会が策定予定の DMO としての「経営改善計画」に記載することとします。

飯能市観光ビジョンと経営改善計画の関係図



(2)新型コロナウイルス感染症の流行を背景に人の移動と三密を避けながら観光を楽しむ手段として注目された形態で、自宅からおよそ１時間圏内の地元で旅行を楽しもうというもの。

(3)Work（仕事）と Vacation（休暇）を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。休暇主体と仕事主体のパターンがある。

(4)Business（ビジネス）と Leisure（レジャー）を組み合わせた造語。出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと。

～新たな飯能市観光ビジョン(第三期)～

新たな飯能市観光ビジョン(第三期)の将来像、キャッチフレーズを以下のとおりとします。

① 目指す将来像

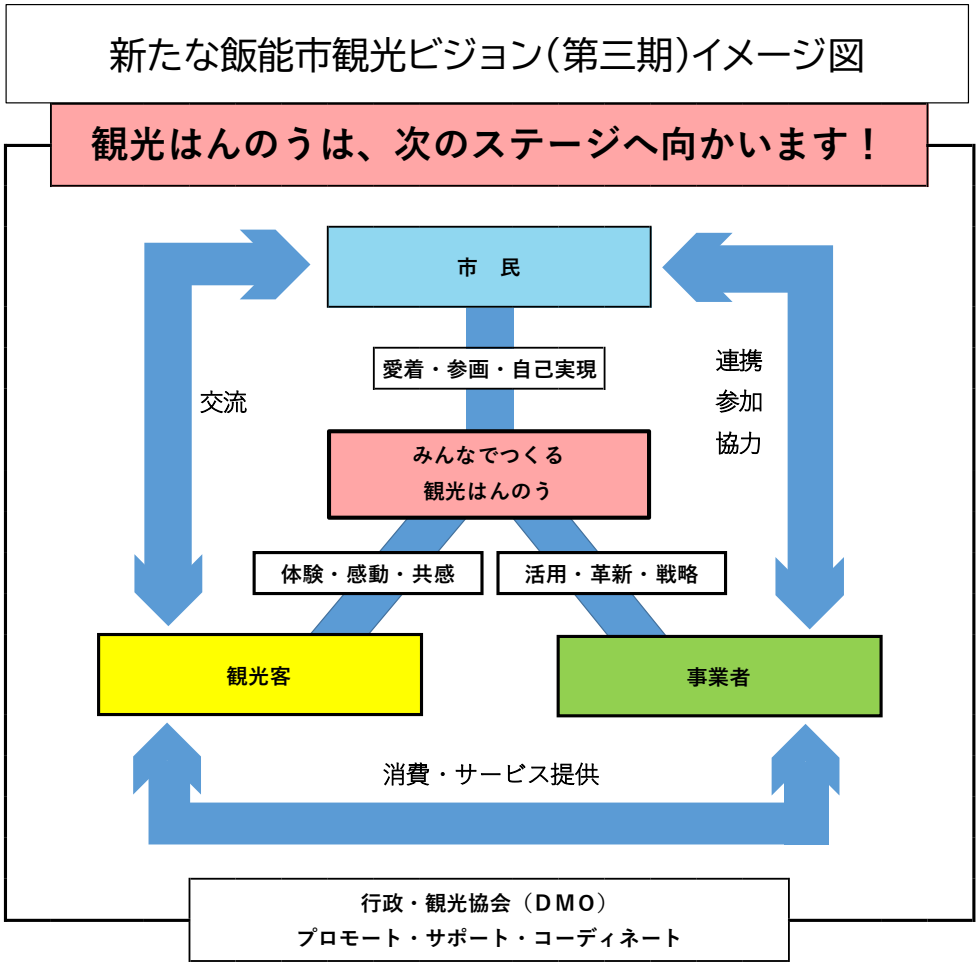
【みんなでつくる観光はんのう】

市民、観光客、事業者それぞれが飯能市の観光を通して深く関わり合うことで、みんなが好きになる観光地「観光はんのう」をつくります。

② キャッチフレーズ

【観光はんのうは次のステージへ向かいます！】

ポストコロナ時代に対応した観光スタイルの構築と官民役割分担の視点を踏まえ、飯能市観光ビジョン(第二期)から次のステージへ向かいます。



③ 飯能市観光ビジョン（第三期）における5つの目標

飯能市観光ビジョン（第二期）において設定した5つの目標の達成状況等を踏まえ、飯能市観光ビジョン（第三期）において取り組む目標を以下のとおり定めます。

【目標1】交流人口480万人を目指します。

総合振興計画基本構想の目標人口（交流人口）の480万人（令和7年度）を目指します。

【目標2】豊富な資源を生かして多様なニーズに応えます。

豊かな自然や森林資源、エコツーリズム（エコツアー）、森林文化とフィンランド文化との親和性など、オリジナリティのある観光資源で多様なニーズに応えます。

【目標3】地域の稼ぐ力を最大限に引き出します。

観光協会（DMO）を中核に、データ分析に基づいたマーケティングにより、地域の稼ぐ力を最大限に引き出し、地域経済を好循環に導きます。

【目標4】住む人来る人みんなが好きになる観光地を創ります。

市民が楽しみ、誇れる観光地域づくり、観光客と市民との交流による体験機会の創出などすべての人に愛される観光地を目指します。

【目標5】観光インフラに対する観光客の満足度の向上を図ります。

観光公衆トイレ、登山・遊歩道、案内看板、ベンチなど観光インフラを整備維持し、観光客の快適さ、充実感、満足度の向上に努めます。

④ 目標達成のための基本施策

５つの目標を達成するための基本施策を次のとおり定めます。

１ 新たな交流と観光のすすめ

(1)観光地の魅力アップと更なる誘客

1）新たな観光資源の発掘、磨き上げによる着地型・体験型・回遊型観光の推進

本市の豊かな自然環境やそこに育まれた歴史、文化、暮らしは、それ自体が観光客にとってとても魅力的な観光資源です。エコツアーや観光協会のツアーなどにおいて、政策間・産業間連携の視点により新たな観光資源（地域のお宝）を発掘し、それぞれの資源の特性を更に磨き上げ、魅力を高めます。

2）まち歩きや回遊型の観光による中心市街地・商店街などでの消費促進

本市の魅力的な観光資源を活用し、回遊の仕組みを作ることで、商店街をはじめとした市内での飲食や買い物、公共交通の利用、宿泊などの消費を促進します。また、コンテンツやイベントを充実させることで、オフシーズンの来訪者増につなげます。

3）森林資源など豊かな自然環境、歴史・人文資源の活用による山間地区を含む市内全域への観光客の誘導促進

市域の75％を占める森林や歴史的建造物について、登山、ハイキング、エコツアーなどのレジャー機能のほか、健康・体力増進、休息・リフレッシュなどの保健・レクリエーション機能など多面的な利活用を図ります。

4）ヤマノススメなど、アニメコンテンツを活用したアニメツーリズムの推進

アニメ「ヤマノススメ」は、多くのファンを魅了し、本市の知名度、認知度を向上

させるとともに多くのファンが本市を訪れています。第4期アニメ「Next Summit（ネクストサミット）」のテレビ放送なども踏まえ、「ヤマノススメ」など、アニメコンテンツの魅力を生かしたアニメツーリズムを推進します。

さらにファンと共に愛着のある観光地としての魅力向上に努めます。

5）ポストコロナにおける新しい生活様式を踏まえた観光の推進

市内事業者や来訪者等へ基本的な感染対策の徹底を図ります。また、スタンプラリーなど密を防ぎながら市内を回遊する仕掛けづくりを行います。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により新たな働き方である「ワーケーション」や新たな旅の形である「マイクロツーリズム」などが広まりつつあり、首都圏に近く豊かな自然を背景にそうしたニーズへの対応に取り組みます。

6）オーバーツーリズム対策による持続可能な観光の推進

GWや夏期における飯能河原などでは、多くの人が訪れることによる迷惑駐停車やごみの投棄、騒音など自然環境や市民の生活環境に悪影響を与える事象が発生しています。飯能河原については、埼玉県などと連携し、利用の適正化を進めるとともに、他のエリアを含め、観光客の分散化やマナーアップなどに努め、地域に住む人と訪れる人の調和のとれる観光地を築きます。

7）ICT、デジタル技術、SNS 活用などによる情報分析と情報発信の強化

SNS等を活用し、情報分析をすることで、マーケットやターゲットを絞り込み、効果的なパブリシティを行います。また、ブランディングやプロモーション等で、他の観光地との差別化や高付加価値を創造します。そのほかにも、VRやARなどのデジタル技術を活用した、観光地の更なる磨き上げも行います。

（2）受入体制の整備、推進体制の強化と住民参画の推進

1）奥むさし飯能観光協会のDMOとしての観光地域づくりへの協力

DMOである観光協会の観光地域づくりの伴走支援を行うとともに、観光協会との適切な役割分担と連携により、地域の稼ぐ力の向上や多様な人、団体などの観光事業への参画を促進します。

2）観光関連、公共交通、商工業、農林業の各事業者や教育機関との連携強化

市内の観光・レジャー施設事業者や宿泊事業者をはじめ、公共交通事業者、商工業、農林業、大学など多様な事業者との連携により観光客の受入体制や観光推進体制を強化します。また、埼玉県や埼玉県西部地域まちづくり協議会構成市をはじめとした自治体等との広域連携を強化します。

3）市民参画の促進と観光を通じた市民の郷土愛の醸成

市民が楽しめる、市民に愛される観光地経営を進めるとともに、観光事業への市民の参画を促進し、おもてなし体制の強化、観光行政に対する市民満足度の向上、郷土愛の醸成を図ります。また、各地区の自治会、まちづくり推進委員会をはじめとした各種団体との連携を強化します。

4）二次交通利用の促進

MaaS[5]や新型輸送サービスを研究し、観光・レジャー施設事業者、公共交通事業者、地域や中心市街地の商店等と旅行会社、携帯端末アプリ事業者との連携を推進し、着地型観光の起点である駅から観光地までの交通手段の利便性向上と魅力の付加により、市民や観光客の満足度を高めます。

[5]MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段。

5）観光基盤施設の適正な整備維持

観光公衆トイレや案内看板、ベンチ、山頂からの眺望などについて、観光客の満足度を高める整備、維持管理を進めます。また、特に市街地では観光客へのサービスとして公共施設のみならず、民間事業者とも連携しフリーWi-Fi等の提供を図ります。

（3）インバウンド対応の推進

1）体験コンテンツや観光基盤、情報発信、受入などでのインバウンド対応推進

観光協会や飯能商工会議所を中心に、事業者や市民向けのインバウンド研修の実施のほか、コミュニケーションツールなどによる対応力の強化を図ります。また、海外への積極的な情報発信、商談会への参加、モニターツアーの実施など、訪日外国人の誘客に取り組みます。

2）埼玉県や民間事業者と連携した訪日外国人の誘客推進

案内表示にはピクトグラムを取り入れてバリアフリーを進め、民間施設等においてはキャッシュレス対応や翻訳機導入を研究し、外国人に対応できる受入体制の構築に努めます。また、埼玉県と連携し、訪日外国人の誘客を推進します。

2 エコツーリズムの推進

(1)魅力的でオリジナルな体験価値の提供

1）豊かな自然環境や伝統文化など、地域資源・地域特性を生かした魅力的でオリジナルなツアープログラムの充実と担い手の確保及び人材育成

地域資源・地域特性を磨き上げ、多くの人に心の豊かさと感動を与える場と出会いを提供するとともにそこに暮らす人々に地域の魅力の再発見を促し、持続可能な観光地域づくりにつなげます。併せて、自然環境の保全、観光振興、地域振興、環境教育というエコツーリズムの基本理念のもと、新たなツアーの造成、市民参画やツアーの担い手の育成に努めます。

2）多様な産業との連携を図り、地域経済の活性化につながる魅力的なツアープログラムの創出

豊かな自然や育まれてきた文化と地域で営まれてきた林業、農業、商工業などをエコツーリズムという視点で結び付け、地域経済の循環につながるツアープログラムを創出します。

3）多種多様な方法による効果的な情報発信

飯能エコツアーのチラシの発行やSNSの活用等による情報発信はもちろんのこと、飯能市エコツーリズムにおける独自のSDGsアピールポイントを効果的に発信するなど、他地域のエコツアーにはない、ブランディングに取り組みます。

4）エコツーリズムを通じた自然環境や歴史、生活文化の保全

エコツアーの実施によって、地域の個性と魅力の源である自然や地域で育ま

れてきた文化などを実施者と参加者で共有・共感し、保全につなげることで次世代へ継承していきます。

⑤ 推進体制

観光立国推進基本法によれば、地方公共団体は「観光立国の実現に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、自主的かつ主体的に、地域の特性を生かした施策を策定し、実施すること」が責務とされ、住民は「魅力ある観光地の形成に積極的な役割を果たすよう努めること」、また、観光事業者は「事業活動を行うに際して住民の福祉に配慮するとともに、観光立国の実現に主体的に取り組むこと」などが求められています。

また、第5次飯能市総合振興計画後期基本計画においては、観光協会をはじめ観光関連事業者等との更なる連携強化による観光客の受入体制の整備と、観光事業への市民の理解と参画の促進を今後の課題として位置付けています。

なお、以下の3点を「基本施策を推進するために共通する視点」とします。

(1)持続可能な観光推進

観光はんのう、飯能市エコツーリズムを通じて、国連の持続可能な開発目標（SDGs）やゼロカーボンシティの達成・実現を意識して取り組みます。特に、本市の重要政策課題である森林の保全と多面的な利活用に取り組みます。また、ウィズコロナ・ポストコロナにおける新たな生活様式への対応に取り組みます。

(2)多様性への対応

誰もが安心して快適に過ごせる観光地づくりに取り組みます。

(3)観光による地域活性化とまちづくり

消費や雇用の促進など観光による経済好循環、公共交通の積極的活用などに取り組みます。また、市民が楽しめる、積極的に参画する観光によるまちづくりや市内各地区の資源や特色を生かした賑わいの創出に取り組みます。

飯能市イメージキャラクター
夢馬（むーま）

飯能市産業環境部　観光・エコツーリズム推進課